

◎清瀧山弘誓寺

「うどかんのん」「宇土の観音さん」として親しまれているお寺です。当山は、今より約 1360 余年前、孝徳天皇白雉年間（650-654）に法道仙人の草創せられた古刹であります。当時は、槇が峰一帯に僧坊が軒をつらね、今に「槇が峰千軒坊」と伝えられる仏法繁盛の霊地でありました。

ところが寿永三年（1184）源平の兵乱に際し、源氏の大將源義経が、平氏を追って槇が峰にさしかかった時、千軒坊に平氏の伏兵ありと見て、夜間火を放たしめた。折しも風烈しく、全山焼失しました。その後、再建され文明 5 年(1473)に曹洞宗になって清瀧山弘誓寺(せいりゅうざん・ぐぜいじ)となりました。山門に仁王尊(室町期)がおまつりされていて、いつでも拝むことができます。また庭の中央には、みごとな大いちょうがあり、秋には美しく色づきます。

寺の西の飛苦の山(ひくのやま)には、三十三観音・法道仙人像がおまつりされており、頂上には展望所があって、山巡りができます。

◎胡桃噺

馬口池を通過後、義経一行は二手に分かれ、一隊は真南条街道（現在の国道 3 7 2 号線）を進み、もう一隊は岩崎宇土街道を進んだようである。その際、岩崎宇土街道をくる一隊を平家の物見兵がみていた場所というところから、胡桃噺（来る見噺）という名がついた。（東吹から宇土へつながる直線の道、道路沿いは梅林となっている）

参考文献 「多紀郷土史考」

◎一里松池

灌漑用の池の傍に篠山城築の際に街道沿いに一里ごとに植えられた松が植わっています。この池の横の街道を、今から 830 年前に源義経一行と 200 年前に伊能忠敬一行が杉村・大沢に向かったことに歴史のロマンを感じるところです。途中の古道はヒノキ林と竹林に囲まれた趣のある街道です。 一里は 4 k m



